

# 食肉衛生検査情報 豚々<sup>2</sup>

今月の特集  
平成 28 年度と畜検査成績



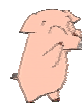
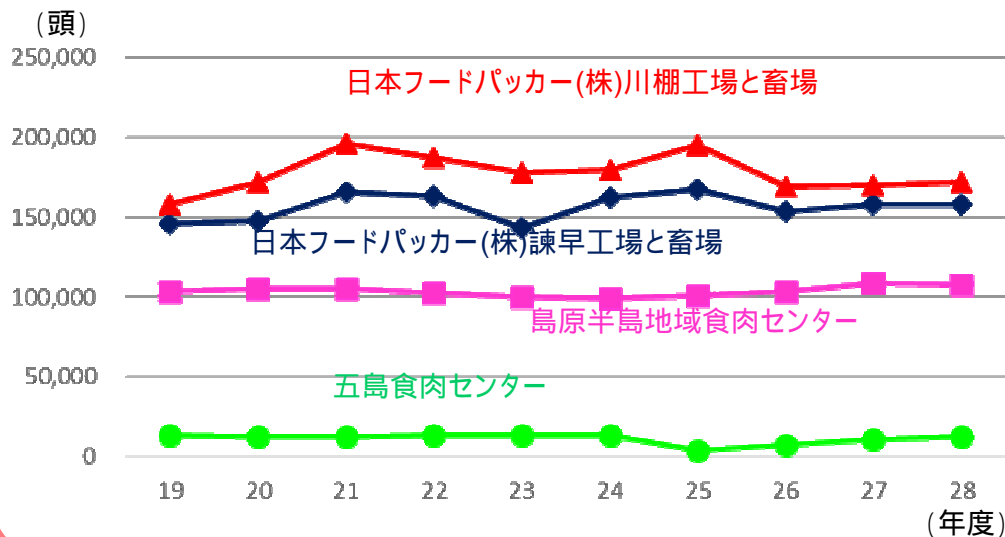
平成 28 年度の長崎県(諫早・川棚・国見・五島)の  
と畜検査成績がまとまりました。

今回はその中から**豚のデータ**について紹介します。

## 検査頭数の推移

平成 28 年度の検査頭数の合計は**450,037頭**で、前年度より1,468頭増加しました。

緩やかな増加傾向にあります。県内では今年の3月および5月に**PED**が発生しましたので、引き続き注意が必要です。と畜場への搬入時にはタイヤや荷台などの消毒を徹底しましょう。



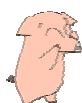
## 全部廃棄の状況

全部廃棄総数  
416頭

- 第1位 **膿毒症** : 222頭 (+35)
  - 第2位 **敗血症** : 161頭 (-21)
  - 第3位 **豚丹毒** : 23頭 (-53)
- ( )は前年度比

- 膿毒症とは、膿瘍の原因菌が体中に広がった病態です。脊椎にできた膿瘍に起因するものが多く、原因の一つに**尾かじり**があります。
- 尾かじりは膿毒症だけでなく、**敗血症**や**発育遅延**の原因にもなります。

➡ **豚舎でのストレス軽減が大切です**



## 一部廃棄の状況

一部廃棄総数  
251,095頭

- 第1位 **MPS型肺炎** (44.3%)
  - 第2位 **胸膜炎** (32.3%)
  - 第3位 **横隔膜炎** (18.1%)
- ( )は一部廃棄総数に対する割合

- 上位は**呼吸器系の病変**が占め、昨年度と同様の結果でした。
- 肺炎はひどくなると胸膜や横隔膜と癒着するため、まとめて廃棄となってしまいます。
- 肺炎は明らかな臨床症状が認められなくても、**発育遅延**や**飼料効率の低下**などによる経済的損失の原因となります。

➡ **飼養衛生管理やワクチン接種が大切です**